NEUTRAL通信 vol.8

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」
というNEUTRALのコンセプト実現に向け、NEUTRAL通信を発行しています！
第8回目は現在NEUTRALと全館にて展覧会を開催中の赤松加奈さん。
NEUTRAL通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

土の声を聞き、風とあそぶ

2023.05.27sat. - 6.18sun.

画家

赤松 加奈 / ***KANA AKAMATSU***

1990年、奈良県生まれ。関西を中心に活動している。群馬青年ビエンナーレ2019大賞受賞。結婚し農業をする傍ら絵を描き、また、高校やフリースクールなどで子どもたちと絵を通して交流をしてきた。農業風景の中にある生と死、そしておおらかで切実な周囲の人々の姿を描いている。

堀川新文化ビルヂング 館内インフォメーション

大垣書店 OGAKI BOOKSTORE

堀川新文化ビルヂング店では、本だけでなく文具や雑貨なども販売しています。
そこで今回おススメするのが、藤原食品さんの「藤原納豆」です。
鞍馬口に本社をかまえる京納豆を古くからお伝えする絶品です。
大豆本来の味が濃く一度食べると他の納豆が食べれなくなりますよ！

営業時間：10:00～22:00　TEL：075-431-5551

SLow Page Coffee Roaster & Bar

当店ではただいまクリームソーダフェスティバルと題して、オリジナルのクリームソーダを販売中です。ブルー、ピンク、イエロー、バイオレットのほか、定番のメロンクリームソーダの五種類をご用意しております。熱くなるこの季節、見た目も華やかなドリンクで涼しいひと時を是非お過ごしください。

営業時間：8:30～23:00　TEL：075-431-5551

SHOKODO KYOTO

印刷会社「修美社」が運営する印刷工房。本屋の中で本づくりから販売展示の提案をしています。

営業時間：10:00～18:00　TEL：080-4248-3432　月・日祝 定休

NEUTRAL

次回展
「ぼくは、ぬいぐるみだった。」
出川晋
2023.06.24sat. ― 2023.07.17sun.
06.24sat. 17:00~19:00　オープニングパーテイー　1drink（¥500~）
07.01sat. タカカーンと飲食型鑑賞会 with バー出川　1drink（¥500~）
営業時間：10:00～19:00　TEL：075-431-5537

Gallery PARC GRAND MARBLE

そこら中のビュー / The Journey Through Everyday View
坂口佳奈・二木詩織
2023.06.03sat. ― 2023.06.25sun.
ワークショップ「うらおもて絵画を作ろう」
06.24sat. 13:00-16:00
お申し込み、詳細はGallery PARCのホームページをご覧ください。
営業時間：13:00～19:00　TEL：075-334-5085　水・木 定休

堀川新文化ビルヂング
HORIKAWA NEW CULTURE BLDG. KYOTO

〒602-8242 京都府京都市上京区皀莢町287
[アクセス]
〇地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分
〇京都市バス9番・12番・50番・67番系統
「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
〇駐車場・駐輪場あり
※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ　Instagram

お問い合わせはHPまで

画家・赤松加奈さんに聞きました

——どんな子供時代でしたか？

小学生の頃は生き物や自然が大好きでした。通学路が家から学校まで5分のところ、カエルやザリガニを捕まえたり、花を摘んだりして40分近くかかっていました。絵も好きでよく描いていました。が、中学生のころに勉強がつらくて不登校になって、好きだったことをすべて忘れてしまいました。高校は芸術系の学校だったのですが、そこで絵が好きだったことを突然思い出しました。とはいえ当初は絵を描くことにもビビっていたので、リンゴを描いても桃ぐらいの赤色しか出せなかったりしていました。知らない間に元に戻りましたけどね（笑）

大学はもっと自由に絵を描きたいと思って京都造形芸術大学の洋画コース（現　京都芸術大学油画コース）に行きました。そのまま卒業すると絵を描く機会がなくなりそうだったのと、まだまだ未成熟な感じがあったので、大学院に行きました。そのころから、母校の高校で非常勤講師として美術の先生を始めました。

——作家になろうと思ったきっかけはありますか？

高校生の時に教えてくれていたのが画家の三瀬夏之介先生と山本太郎先生で、二人の強烈な個性をみて、（こんな個性的な風にはなれないかもしれないけれど）こんなに好きに生きられる世界なんだったら私も作家としてやっていけるかも！　と思ったのがきっかけです。

——今の画風はどのように生まれましたか？

大学院2年の時、高校の非常勤をしつつ卒業制作に追われていました。その頃は絵とインスタレーションを一緒にやっていたのですが、卒展で一つの形ができてよい区切りになりました。ただ、卒業すると場所の問題もあってインスタレーションができなくなったので、立体に広がったものを平面に戻す作業を進めました。院生の頃はコラージュしたものを立体化するような作品で、直線が良く出てきていたので、それが今の作品に影響していると思います。

——直線があまり出ない絵もありますね。

最近は直線的な緊張感をどの程度緩めていけるか、緩めても成立するかを実験しながら描いています。具象と抽象も描く時期によって行ったり来たりしますね。嫁いでから農業に従事しているのですが、自然ばっかりではなくてトラクターみたいな人工物や直線的な畝があったりと、とてもせめぎあっているんですよね。そのバランスが時期や人によって揺れ動くのがとても面白いので、線に表れているかもしれません。

——好きな作家さんはおられますか？

アンリ・マティスが好きですね。出産までに絶対展覧会に行こうと思っています。

——今の制作環境を教えてください。

元農業用の倉庫を改装してアトリエにしています。

——見に来てくださるお客様にひとこと！

頭を「ぽかん」として見てもらえたらうれしいです！

好きな本

西加奈子『しずく』光文社

伊坂幸太郎『グラスホッパー』角川文庫